

4月季節の便り



コサギ：

お馴染みのサギで、白鷺と呼ばれる鷺の中で一番小さく、みは♀より少し大きい。夏羽に換わってきて頭に長い冠羽が現れ、背の飾り羽は先が巻き上がっています。冠羽などが出ない個体も結構います。

ジョウビタキ・メス：

先月はジョウビタキのオスを掲載しましたが、別の紅梅にメスが止まっているところを撮りました。

メスはオスに比べると地味ですね。



カワウ幼鳥：

野川は浅い川で、少し水深があるよどんでいる所にはカワウの成鳥も時々やってきて魚を追っていますが、幼鳥が来るのは珍しいです。

オナガガモオス・ヒドリガモペア：

このオナガガモは昨年12月の季節の便りに載せた個体で、換羽も済み美男子になりましたが、残念ながら相手が見つからなかったようで、ヒドリガモのペアをうらやましそうに見ています。





ルリビタキ・オス若鳥：

この若鳥は昨年12月2日に水場に現れ、それからずっと居続けています。

12月4日にはルリビタキの紺色のオスの成鳥が現れましたが、この若鳥から水場付近から追われて、周辺で時々観察されましたが、写真を撮った人はいません。



マンサク：

雪国に春の訪れを告げる縁起の良い花。

クイナ：

冬鳥で野川下流や多摩川では毎年観察されますが、小生のパトロール域では5年ぶりです。ザリガニを獲って飲み込むところです。





ベニマシコ・オス：

トビも大型の鷹の仲間です。年に数回上空に現れクルリと輪を描いていますが、いつもカラスに付きまとわれて何とかかわそうと苦労しています。



ベニマシコ・メス：

オスの下に白っぽいボールのように止まっています。



ハシビロガモ・オス：

長めで、横幅が広くちばし。冬鳥として日本各地に渡ってきますが、調布飛行場北の修景池には久しぶりに姿を見せたとのことで、北への帰還の途中立ち寄りのようです。

野鳥の世界では鹿児島県の出水市に渡来したツルは、1月下旬に第一陣が北に向けて旅立ったとのこと、当地でも渡来種・渡来数共に少なかった冬鳥達が北の繁殖地に次々と旅立って殆んどいなくなりました。

3月31日には、修景池の上をツバメが4, 5羽飛んでいるのを観察しましたが、4月中旬頃から、南方からキビタキ、オオルリ、ムシクイ類の夏鳥達がやってきます。

当地の留鳥も繁殖のための婚活に忙しく、巣作り時期が早いエナガはペアとなり苔やクモの巣などを運んでおり、次は仕上げの羽毛運びになります。